

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

| Platinum | Price   | Date      |
|----------|---------|-----------|
| Open     | 1188.00 | 2021/3/29 |
| High     | 1215.00 | 2021/4/2  |
| Low      | 1154.00 | 2021/3/31 |
| Close    | 1212.00 | 2021/4/2  |

円建て 円/グラム

| Platinum | Price   | Date      |
|----------|---------|-----------|
| Open     | 4129.00 | 2021/3/29 |
| High     | 4321.00 | 2021/4/2  |
| Low      | 4096.00 | 2021/3/31 |
| Close    | 4312.00 | 2021/4/2  |

ドル建て ドル/TOZ

| Palladium | Price   | Date      |
|-----------|---------|-----------|
| Open      | 2618.00 | 2021/3/29 |
| High      | 2683.00 | 2021/3/29 |
| Low       | 2525.00 | 2021/3/29 |
| Close     | 2668.00 | 2021/4/2  |

円建て 円/グラム

| Palladium | Price   | Date      |
|-----------|---------|-----------|
| Open      | 9440.00 | 2021/3/29 |
| High      | 9503.00 | 2021/4/2  |
| Low       | 8899.00 | 2021/3/30 |
| Close     | 9486.00 | 2021/4/2  |



ニュースエクスプレス

アメリカン・イーグル・プラチナコイン、2021年3月の売上げは3万5000オンス（992キロ）に

3月28日に高騰した貴金属は、ゴールドとシルバーの月初からの損失を柔らかく、プラチナを当面の間安定領域に押し上げて、そしてパラジウムの月間含み益をさらに増やす形となった。第1四半期としては、ゴールドとシルバーは下落、プラチナとパラジウムは上昇となった。

3月に販売開始となったアメリカン・イーグル・プラチナコインの第1四半期の販売高は3万5000オンス（992.2キロ）で、昨年3月リリースでは3万1200オンス（884.5キロ）が購入され、その後3ヶ月で5万5000オンス（1559.2キロ）を記録した。

<https://www.coinnews.net/2021/03/31/gold-posts-biggest-quarterly-loss-since-2016-u-s-mint-bullion-sales-mixed-in-march/>

触媒貴金属、再び最高値圏 鉱山トラブルでパラジウムやロジウム 車生産のコスト増も

主にガソリン車用触媒に使うパラジウムの国際価格が急騰し、昨年2月下旬に一時付けた過去最高値水準に迫っている。自動車の生産回復に伴い需要が復調する一方で、世界生産の約4割を占めるロシアの鉱山で浸水トラブルが発生。供給不足への懸念が強まった。ロジウムなど他の触媒貴金属も昨年秋以降に急騰しており、需要家である自動車メーカーの収益を圧迫する要因となっている。

指標となるニューヨーク市場のパラジウム先物は中心限月の6月物が3月18日に一時1トロイオンス2700ドル台半ばまで急騰。昨年2月27日に付けた2789.8ドルの過去最高値以来1年1カ月ぶりの高値を付けた。日本時間30日の時間外取引では2500ドル台前半まで下げたものの、なおコロナ後のレンジの上限付近だ。

きっかけは世界で年200トン程度とされるパラジウム生産の約4割を占めるロシアの供給懸念だ。ニッケルや銅の副産物としてパラジウムなどを生産する最大手のロシアのノリリスク・ニッケルは、2月中旬に2つの鉱山で起きた地下水の浸水トラブルにより操業を一部停止。今月16日にフル生産への回復には3~4カ月かかるとして、パラジウムの今年の生産見通しを22%減と、当初比2割程度引き下げると公表していた。これまでもパラジウムの需給は逼迫気味に推移していた。中国や欧州など各国が近年、排ガス規制を強化したことで、規制クリアの要となる触媒需要が急増したためだ。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自動車生産が減ったことで、需給が一時的に緩和し、相場も昨年3月以降は落ち着いていた。足元では自動車の生産が再開して需要が復調。供給トラブルも重なり、相場が一気に押し上げられた。

パラジウムなど触媒用貴金属の騰勢は、自動車メーカーなどのコストを圧迫している。ガソリン車から出る窒素酸化物（NOx）を除去するのに不可欠なロジウムも足元で1トロイオンス2万ドル台後半と過去最高値圏だ。触媒用貴金属の騰勢が始まったのはここ数年で、5年前比でパラジウム価格は約5倍、ロジウムは40倍を超える高騰となった。米ゼネラル・モーターズ（GM）は貴金属など原材料高騰により「年間数十億ドル（数千億円）のコスト増になる」と述べた。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODJ211R30R20C21A3000000/?unlock=1>

トヨタ 熊本赤十字病院と世界初の燃料電池医療車の利活用実証をスタート

トヨタは3月31日、熊本赤十字病院と協力し、世界初となる水素を使って発電する燃料電池医療車の実証実験を、2021年夏までに開始することに合意したと発表した。

開発された燃料電池医療車はトヨタ・コースターをベースに、「MIRAI」にも搭載されているトヨタフューエルセルシステムを動力源に採用。走行時にCO2や環境負荷物質を排出しない環境性能と、低騒音・低振動を兼ね備えたものとなった。

給電機能については、車内外にアクセサリコンセント（AC100V）を装備するほか、高出力かつ大容量の電源供給能力を備えたDC外部給電システム（最高出力9kW、供給電力量約90kWh）も搭載。また、車内は空調とHEPAフィルターを経た排気装置の組み合わせで、乗員の活動時の感染予防を高めている。

<https://www.goo-net.com/magazine/112933.html>

米ハイゾン・モーターズ、欧州での水素燃料商用車のリースサービスを開始

米ハイゾン・モーターズによる水素トラックの新たなリースサービスは欧州の水素トラック市場に新たな動きを導入することになるだろう。3月31日に発表された新しいサービスは、ハイゾンとハイゾンブランドの燃料電池車の水素燃料、保険、サービスとメンテナンスを含む。

このサービスを使うことで欧州の運送業者は水素燃料電池車への転換を加速できるとともに、他の産業セクターにも燃料電池車の優位性を示すことになるとみられる。

ハイゾン社は、このサービスは欧州市場向けの包括的なリースサービス提供の第一歩であるとしている。

今回の発表には、オランダのフローニンゲンにある同社の製造拠点を中心に水素燃料に特化したモビリティ分野のリーダーとしての地位を確保し、欧州が水素エネルギーへの転換を図るにあたって重要な役割を担いたいと言う同社の思惑も含まれている。

<https://www.greencarcongress.com/2021/04/20210401-hyzon.html>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- パラジウムと比べ割安なプラチナが前者を代替する傾向が益々明らかに。この代替によるプラチナの需要は2021年に約4.7トン、2025年には約46.7トン増えるということだ。詳しくは「WPICプラチナ展望 2021年3月号」をご覧ください。

[https://platinuminvestment.com/files/432755/WPIC\\_Platinum\\_Perspectives\\_March\\_2021.pdf](https://platinuminvestment.com/files/432755/WPIC_Platinum_Perspectives_March_2021.pdf)



(@wpicjapan)

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。